

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	常設展示更新事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	教育委員会	課等名	美術博物館		包含する細々目	1	10	5	6	11	7	1,353
政策	2 地育力によるこころ豊かななづくり											
施策	29 ふるさと意識の醸成											
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	事業期間		1	年度～	年度	関連計画 条例等	地域史研究事業

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値				
	・飯田下伊那広域圏の地域住民 ・自然・人文の常設展示室	圏域住民数(人)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする		
			177000	177000			
		常設展示室の部屋数(室)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	2		
		2	2				
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
	・常設展示の内容を定期的に更新することで、絶えず新しい情報を織り込んだ展示内容として充実させる。これにより、観覧者に新たな驚き・発見を与える。 ・調査研究の成果を市民と共有する。	常設展全体に対する展示更新を行った部分の比率(%)	18目標	10	最終目標	100	最終目標達成年度
			18実績	10	19目標	15	
			23目標	10	23実績		
		全展示資料に対する更新した資料の比率(%)	18目標	5	最終目標	100	最終目標達成年度
18実績			5	19目標	5	↑	
23目標			10	23実績			

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	常設展示室の全面改装は長年の懸案であるが、当面は小規模な展示更新を定期的に行い、新たにロビー空間の有効活用するなど、工夫を凝らして改善に努めたい。	18年度の実績 ・展示に供する資料の収集、寄贈の受け入れを適宜行なった。 ・寄贈された民俗芸能の写真パネルを展示した(人文展示室)。 ・18年度飯田市有形文化財に指定された物件(菩薩面など)を展示した(人文展示室)。 ・民俗芸能関係の資料を展示した(人文展示室)。 ・照明器具の更新を行った(人文展示室)。 ・ほ乳類の剥製を展示した(自然展示室)。	・展示資料の更新回数(回)	5
	19年度計画 ・展示解説シートの制作を行う(A4カラー 20000部)。 ・トピックス的な小規模展を開催したい。 ・展示に供する資料の収集、寄贈受け入れを行う。 ・可動式の展示ケース、免震台を継続して購入する。 ・自然展示室導入部の展示資料を全面的に入れ替える。 ・ロビーを展示を導入部分としてより効果的に活用できるようにしたい。	・展示資料の更新回数(回)	5	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	991	1,353
	事業費計(A)	991	1,353
人件費	正規職員所要時間	18年度 120	19年度 120
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	429	429
	トータルコストA+B	1,420	1,782

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	・地域を知る ・地域を誇りに思う	飯田の自然・歴史・文化を学んでいる市民の数(延べ人数)	現状値	18016	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	19800
	ふるさとを誇りに思っている市民の割合(%)	ふるさとを誇りに思っている市民の割合(%)	現状値	75.3	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	85	

この事業を開始したきっかけ 開館当初から10年目を目途に展示更新を計画する一方、随時展示資料の入れ替えによる小規模更新に努めてきた。	事業を取り巻く状況の変化 開館18年を過ぎ、設備が老朽化して展示内容の新鮮さが薄れ、観覧者が減少している。社会一般の展示に対する考え方も、従来の“モノ”陳列から体感型へと大きく変化している。一方、開館以来の調査研究の成果が蓄積できている。また17年10月に新飯田市が誕生し、合併地域の特質を活かすことも必要となっている。	事業に対する市民や議会の意見 「数年前に来館したときと変わっていない」という常設展示室のマンネリ化を指摘する声がある。意外と貴重な資料が展示されているのに目立たなくて勿体ないとの声もある。
---	---	---

### 【See】18年度の振り返り

目的 妥当性 評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？ (評価) <b>結びつく</b> (その理由) 常設展示に最新の研究成果が盛り込まれることで、観覧者が常に新鮮な情報を享受できるようになる。	有効性 評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？ (評価) <b>余地がある</b> (その理由) 設備の老朽化と展示内容のマンネリ化が進んでいる一方、調査研究の蓄積があるので、向上させる余地は大である。
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？ (評価) <b>必要性がある</b> (その理由) 常設展示室自体は固定しているが、ロビー空間を常設展示室へ至る導入空間として有効利用できるような検討することも必要か。		廃止・休止した場合の影響はありますか？ (評価) <b>影響あり</b> (その理由) 最新の研究成果を恒常的に市民に提供することができなくなり、展示施設として機能しなくなる。
	意図の見直しの必要性はありますか？ (評価) <b>必要性がない</b> (その理由) 展示内容の充実が恒常的に努力すべきである。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)。 (評価) <b>統合不可能</b> (類似事業名、理由) 伊那谷の自然と歴史文化を系統的に学べる施設は他にない。
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか) (評価) <b>必要ある</b> (その理由) 地域文化を発信する最も基本的な展示なので、公共性、公平性の高い市当局が関与する必要がある。		他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)。 (評価) <b>不可能</b> (その理由) 事業内容を精査し、金銭的、人的に必要最小限の労力に対応している。
	成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？ (評価) <b>不可能</b> (その理由) 事業内容を精査し、金銭的、人的に必要最小限の労力に対応している。	公平性 評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？ (評価) <b>妥当である</b> (受益者とその理由) 常に新鮮な展示室を観覧者に享受してもらうには金銭的な負担が不可欠であり、その負担を享受者たる観覧者に求めることは妥当である。

### 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持	実施年度 <b>具体化</b>	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案 18年度から具体的に準備にかかるはずだった展示室の全面更新事業が延期となったため、当面はこれまで通りの活動を行うことになる。しかし全面更新事業はいずれ行わなければならないので、常にそのことを意識して取り組みたい。いっぽう、新たに工夫の余地があると感ずるのはロビー空間の有効活用である。全面更新が実現するまでの間、ロビー空間を自然・人文分野を結びつける導入部分としてより効果的に活用できる方法を考えていきたい。
上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法	展示解説シートの制作、展示ケースの発注・制作は、あくまで全面更新後も引き続き使えるよう考慮する必要がある。	

#### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

#### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	